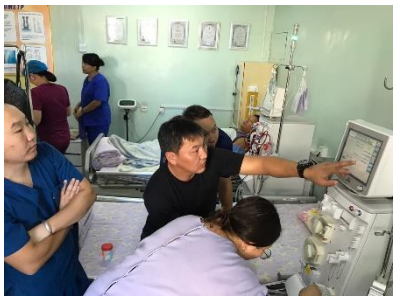
2019 年度モンゴル活動報告

期　間：2019 年 8 月 27 日～9 月 1 日
場　所：ウランバートル
参加者：小久保 謙一（国際委員会）、山本 裕子（国際委員会）、木村 絵美（国際委員会）、齋藤 慎（国際委員会）、矢部 広樹（国際委員会）、松原 弘和（国際委員会）、長沼 俊秀（大阪市立大学病院）、深澤 瑞也（山梨大学医学部付属病院）

今回､3 回目となる 3rd Japanese and Mongolian Joint Seminar on Advances of Treatment and Nursing Care for a Hemodialysis Patient（会場：モンゴル国立第一病院およびモンゴル国保健省）をモンゴル国と JSTB の共同開催にて実施した。

2 日間に渡って開催されたジョイントセミナーの初日は、医師・看護師、エンジニア・テクニシャンの２グループに分かれ、前者はバスキュラーアクセスエコーおよび運動療法、後者は透析装置メンテナンスおよび水質検査のハンズオンを実施した。二日目は講演形式で国際委員会メンバー6 名とモンゴル国側からは 4 名が講演を行った。講演内容は CKD-MBD、HDF 療法、食事療法、バスキュラーアクセス、運動療法、血液透析処方ほかだった。両日ともモンゴル全土から医師・看護師・エンジニアおよびテクニシャンが総勢 50 名以上集まり、例年通り大盛況のもと終了した。

セミナー終了後、モンゴル国の医師・エンジニアのアテンドにて寝台列車に乗って首都ウランバートルから距離 500 kmにあるドルノゴビ県へ移動し、翌日、県内最大の総合病院にある透析室および集中治療室の視察を行った。透析室には 4 台の透析装置（ニプロ 3 台、フレゼニウス 1 台）があったが、1 台故障中とのことで現場テクニシャンから点検して欲しいと依頼あり、急遽、第一病院のエンジニアであるムンクフルド氏と装置内部の点検を行った。警報発生の原因と疑われる部分の特定はできたが、交換部品がなく一時的に警報回避する方法を伝達して終了となった。現地にはモンゴル語の取扱説明書がなく、さらにその内容も一部しか掲載されておらず、メンテナンスに難渋している様子が伺えた。

視察後は寝台列車にて再びウランバートルへ移動し、最終日は第一病院医師らと国際委員会メンバーで今後の研究調査や活動協力について意見交換を行い、無事帰国となった。

2020 年にも第 4 回のジョイントセミナーを実施することとなった。